

平成 22 年度大牟田市自然環境調査報告書

大間山・上徳山 調査



大間山山頂から見た大牟田市街地

平成 23 年 3 月
大牟田市自然環境調査研究会
大 牟 田 市

はじめに

本市では、平成14年度より「大牟田市環境基本計画」を施行し、自然環境の保全を重要な課題の一つと位置づけ、快適環境都市を目指して諸事業を推進しています。自然環境調査は、本市の自然環境の現状や貴重な動植物等の生息状況を調査し、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民の啓発に資するために行っています。

平成22年度は、大間山・上徳山の調査を実施しましたので報告します。

目 次

1 調査目的	1
2 調査日時	1
3 調査地域	1
4 調査対象分野と担当者名	1
5 調査方法	2
6 調査結果	2
(1) 地形・地質	2
(2) 植物・菌類	4
(3) ほ乳類	15
(4) 鳥類	16
(5) 爬虫類・両生類	17
(6) 昆虫類・クモ類	18
(7) 陸産貝類	23
(8) その他	23
7 まとめ	23

1 調査目的

本調査は、大牟田市環境基本計画（平成14年3月版）のグリーンセンサス（定期的な自然環境調査）として、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民・事業者等の啓発に資するため、実施するもの。

2 調査日時

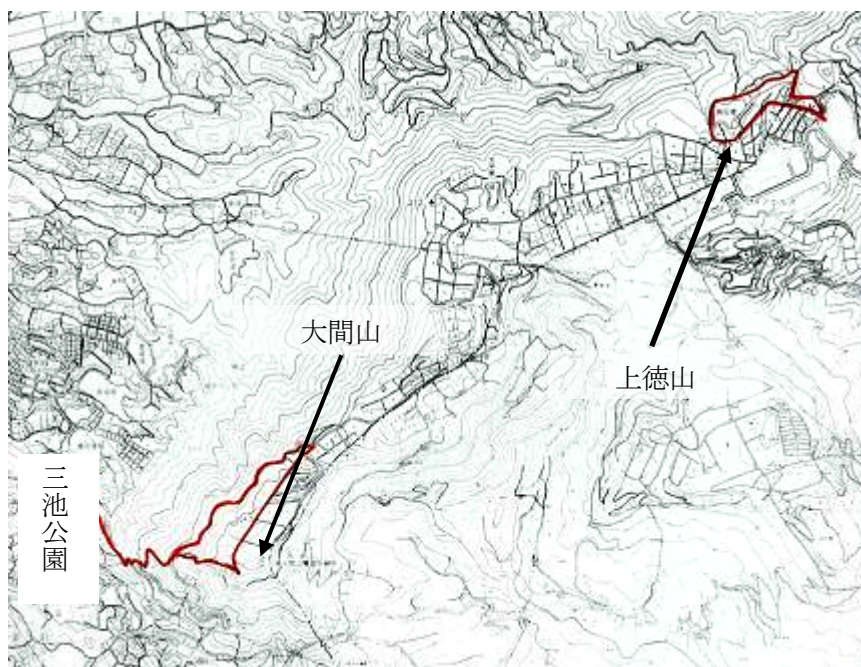
以下の日程で2回実施した。

①第1回調査：平成22年7月17日（土） 9時～13時 天候：晴れ

②第2回調査：平成22年10月9日（土） 9時～15時 天候：晴れ

3 調査地域

この地域は、平成12～13年、環境基本計画の基礎資料として実施された自然環境調査では鳥類Aランク、植物Bランク、昆虫類・ほ乳類Cランクとなっており、陸生の自然環境の総合評価においては、常緑・落葉混交広葉樹二次林、常緑広葉樹二次林などがありAランクとなっている。この調査以降、調査が行われていないことから、今回、本市の北東部に位置する大間山および上徳山の範囲の調査を行った。



市の北東部に位置する大間山と上徳山

4 調査対象分野と担当者

調査対象分野は、地形・地質、植物・菌類、ほ乳類、鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類・クモ類及び陸産貝類とし、大牟田市自然環境調査研究会が調査を実施した。

自然環境調査研究会委員	分野	委員名	分野	委員名
	総括・陸産貝類	嶺井 久勝	鳥類	永江 和彦
	地形・地質	古藤 文彦	爬虫類・両生類	松永 公幸
	植物	中島 健晴	昆虫類・クモ類	中嶋 秀利
	ほ乳類	尾形 健二		

5 調査方法

分 野	調 査 方 法
地 形 ・ 地 質	参考文献並びに既存資料の調査を行い、あらかじめ設定した調査ルートにそって現地調査を行った。
植 物 ・ 菌 類	あらかじめ設定した調査ルートにそって現地調査を行い、確認された種を記録した。 * ほ乳類に関しては、このほか、足跡や食痕・糞などの生活痕により確認した。 * 鳥類に関しては、このほか、鳴き声により確認した。
爬 虫 類 ・ 両 生 類	
昆 虫 類 ・ クモ 類	
陸 産 貝 類	
ほ 乳 類	
鳥 類	

希少野生生物及び特定外来生物については、下記参照。

絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種。
絶滅危惧ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
絶滅危惧ⅠB類	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種。
準絶滅危惧	存在基盤が脆弱（弱い）な種で、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので、国が指定したもの。

6 調査結果

（１）地形・地質

大牟田市と熊本県南関町の境界部に位置する八角目峠から、大牟田市の境界線に沿って北東方向に、大間山と呼ばれる標高 200m～250m前後の広い緩斜面をもつ台地状の低山地形が2km ほどのびている。大間山の三角点は標高 225.2mで、緩斜面の南端付近に位置している。最高標高点は 252mで、台地の中部やや北寄りにあり、周囲の緩斜面から標高差 50mほどの急斜面をなしている。上徳山（標高 258.1m）は大間山の北端に位置しており、北麓は上内峠へとつながっている。

山体の地質は、玉名花崗閃緑岩を古代三紀層である赤崎層群銀水層が不整合に覆っており、さらに一部では、銀水層の上位を整合に大牟田層群米の山層が覆っている。大間山の西側（大牟田市側）では、玉名花崗閃緑岩と銀水層との不整合面は概ね標高百数十mであり、これより標高が高い大間山の台地状の山頂緩斜面と上徳山の山頂部は古代三紀層から成っている。一方、山体の東側（南関町側）では、玉名花崗閃緑岩と銀水層との不整合面が標高 80m付近まできており、甘木山では基盤岩にアバット（※1）していた露頭が見られたが、層位面から考えると基盤の玉名花崗閃緑岩に対して同様な関係にあると思われる。玉名花崗閃緑岩は、全般的に深層風化(真砂化)が顕著で、黒雲母はフロゴパイト化（※2）している。大間山の山麓部での風下層の幅は数十mに及ぶとされている。コアストーン（※3）の露出は、ところどころに見られる程

度であるが、同じ岩体である三池山の東側では、真砂が侵食・剥脱された結果の疑似岩塊的な地形がみられる場合もある。また、大牟田市内岩本に見られる長者岩は、おそらく大間山の玉名花崗閃緑岩のコアストーンが土石流堆積物として移動したものと考えられる。大間山の深層風化面は、花崗閃緑岩であるため粘りがあり、花崗岩の風化斜面でおこるような顕著な崩壊はみられない。米の山層は、最高標高点（252m）付近と、セキヤヒルズ北東の神社付近に分布している。米の山層に特徴的な砂岩層（白色アルコーズ質砂岩）のためか、いずれも、周囲の緩やかな台地状の地形に対してやや急傾斜の丘陵を形成している。また、焼石堤の東側では第八層（米の山炭）の露頭があり、一本松断層のため地層が傾斜している。このあたりは、個人事業主によって昭和 35 年まで米の山炭の採炭が行われていたと伝えられる場所であり、人工的に改変されたと思われる地形や硅化木のズリ（※4）も見られるが、炭質から採炭事業の採算性に疑問をもつ声もあり、米の山炭を稼行対象にした採炭事業があったのかについては、詳細は不明である。山麓部は、阿蘇 4 火砕流堆積物でおおわれているが、山体東側の方が火砕流堆積物は発達しており、溶結部も見られる。

- ※1 アバット不整合 不整合面の上位の地層が、不整合面にぶつかるとように堆積している。堆積盆が急速に形成されていったこと堆積盆が急速に形成されていったことを示している。
- ※2 フロゴパイト カリウム、マグネシウム、アルミニウムが水和したケイ酸塩から成る茶色の雲母。
- ※3 コアストーン 花崗岩類独特の風化作用（真砂化）を免れた岩体。大きいものでは直径数mにもなる。
- ※4 ズリ 鉱山で採掘された鉱石のうち、資源として使えず廃棄する岩石などの部分。

岩本の長者岩【大牟田の宝もの 100 選 大牟田市役所主査・主任会編より抜粋】

大牟田の北東部に岩本がある。田圃の中に、大小二個の岩が見える。これが岩本の長者岩である。長者岩の形を一見してたとえれば、ラグビーボールを転がして半分を地下に埋めた形状で、大岩の高さは目測で約 3m、幅 3.5m、長さは東西に 6m あり、小岩は大岩に寄り添うようにして、大岩の三分の一程度である。



昔、上内に岩本長者が住んでいた。田畑や山林のほかにはたくさんの財宝を持ち、裕福な日々を送っていた。そして、いつの頃からか誰が運んだか分からない大きな岩が、長者の屋敷にデーンと据わっていた。長者は、この大岩を庭石にして、泉水を掘って川から水を引き入れ、四季の草花や樹木を植えて見事な庭園を造り上げた。このように、何不自由のない暮らしをしていた長者だが、天命には勝てずとうとう亡くなってしまった。歳月は流れて長者屋敷も庭園も荒れ果て、跡形もなくなったが、庭園の大岩だけはちゃんと残っていた。

後世になって、屋敷跡も田圃に変わり、大岩が邪魔になるので、村人たちの合意で取り壊すことに決まった。大岩にノミをあてて金槌で叩くと、岩の割れ目から真っ赤な血が流れてきたので、石工は驚いて石割りを中止した。触ると祟りがあると言われて、今も田圃の中に据わっていて、岩本の地名起源の伝説として、地元の人々に語り継がれている。（藤吉）

(2) 植物・菌類

植物では、第1回調査で、シダ植物 15 科 40 種、種子植物 84 科 246 種、計 99 科 286 種、第2回調査で、シダ植物 15 科 51 種、種子植物 89 科 303 種、計 104 科 354 種を確認した。第1回及び第2回の調査結果から、合計シダ植物 16 科 54 種、種子植物 93 科 314 種、計 109 科 368 種を確認した。

希少野生生物は、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているイヌカタヒバ、準絶滅危惧に指定されているウスギモクセイを確認した。(栽培されていたものが逸出し、野生化したものと考えられる。) また、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクを確認した。

菌類では、第2回調査で、2 目 4 科 4 種を確認した。希少野生生物は、環境省準絶滅危惧種に指定されているシロマツタケモドキを確認した。

植物一覧表

分類群				第 1 回調査		第 2 回調査		合計	
				科	種	科	種	科	種
シダ植物				15	40	15	51	16	54
種 子 植 物	裸子植物			4	5	4	5	4	5
	被子 植物	双子	離弁花類	51	139	54	152	56	157
		葉類	合弁花類	20	60	21	78	22	82
		単子葉類		9	42	10	68	11	70
合計				99	286	104	354	109	368

希少野生生物及び特定外来生物リスト

和 名	種 類
イヌカタヒバ 	【環境省絶滅危惧Ⅱ類】 林下の岩上に生じる常緑性シダ。地下茎は匍匐し、葉をまばらにつけ、ところどころに根を生じる。先端部がしだいに地上茎となり、3～4 回分岐して葉身状となる。葉柄に相当する部分は葉身状の部分とほぼ同長、葉身状の部分は広卵状三角形で鋭頭、長さ 12～25cm、幅 5～10cm。胞子囊穂は小枝に1個頂生し、長さ 5～15mm。(出典:環境省レッドデータブック)
ウスギモクセイ 写真なし	【環境省準絶滅危惧】 常緑小高木。枝は淡灰褐色である。葉は対生し短柄で狭長楕円形、鋭尖、鋭脚、深緑色である。雌雄異株。花は9月(宮崎県では時に2～3月)腋出し、束生する。微黄色で香りがあるも劣る。核果は楕円形で暗碧色を呈する。(出典:独立行政法人森林総合研究所九州支所)
オオキンケイギク 	【特定外来生物】 キク科の多年生草本で、高さは0.3～0.7m程度。温帯に分布する。路傍、河川敷、線路際、海岸などに生育する。開花期は5～7月。頭状花。虫媒花。瘦果をつける。(出典:環境省特定外来生物等一覧)

植物合計リスト

No. 1

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
シダ植物 第1回(15科40種) 第2回(15科51種) 合計(16科54種)				
ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ		○	
イワヒバ科	イヌカタヒバ	○	○	逸【環境省絶滅危惧Ⅱ類】
	タチクラマゴケ	○	○	
トクサ科	スギナ	○		
ゼンマイ科	ゼンマイ	○	○	
ウラボシ科	ウラボシ	○	○	
	コシダ	○	○	
フサシダ科	カニクサ	○	○	
コバノイシカゲマ科	ワラビ	○	○	
	イシカゲマ	○	○	
	イワヒメワラビ	○	○	
	フモトシダ	○	○	
ホングウシダ科	ホラシノブ	○	○	
ホウライシダ科	ホウライシダ	○		
	タチシノブ	○	○	
イノモトソウ科	イノモトソウ	○	○	
	アマクサシダ	○	○	
	イワガネソウ		○	
チャセンシダ科	トラノオシダ	○	○	
	コバノヒノキシダ		○	
シシガシラ科	オオカゲマ	○	○	
	シシガシラ	○		
	コモチシダ		○	
オンダ科	イノデ	○	○	
	イノデモドキ		○	
	エンシュウカナワラビ		○	
	オオイタチシダ	○	○	
	オオカナワラビ		○	
	オクマワラビ	○	○	
	オニカナワラビ	○	○	
	オニヤブソテツ		○	
	クマワラビ	○	○	
	ツクシイワヘゴ		○	
	ナガバノイタチシダ	○	○	
	ハカタシダ		○	
	ベニシダ	○	○	

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
(オシダ科)	ヤブソテツ	○	○	
	ヤマイタチシダ	○	○	
	ヤマヤブソテツ		○	
ヒメシダ科	ゲジゲジシダ	○	○	
	コハシゴシダ	○	○	
	ホシダ	○	○	
	ミゾシダ	○	○	
	ヤワラシダ		○	
イワデンタ科	イヌワラビ	○	○	
	シケチシダ	○	○	
	シロヤマシダ	○	○	
	ヘラシダ		○	
	ホソバイヌワラビ		○	
ウラボシ科	クリハラン	○	○	
	ノキシノブ	○	○	
	ヒトツバ	○	○	
	マメヅタ	○	○	
	ミツデウラボシ	○	○	
種子植物 第1回(84科246種) 第2回(89科303種) 合計(93科314種)				
裸子植物 第1回(4科5種) 第2回(4科5種) 合計(4科5種)				
マキ科	イヌマキ	○	○	木・逸
マツ科	クロマツ	○	○	木
	アカマツ	○	○	木
スギ科	スギ	○	○	木・逸
ヒノキ科	ヒノキ	○	○	木・逸
被子植物 第1回(80科241種) 第2回(85科298種) 合計(89科309種)				
(1) 双子葉類 第1回(71科199種) 第2回(75科230種) 合計(78科239種)				
① 離弁花類 第1回(51科139種) 第2回(54科152種) 合計(56科157種)				
ヤマモモ科	ヤマモモ	○	○	木
ブナ科	アラカシ	○	○	木
	クヌギ	○	○	木
	クリ	○	○	木
	コナラ	○	○	木
	シリブカガシ	○	○	木
	スダジイ	○	○	木
	ツブラジイ	○	○	木
	ナラガシワ	○	○	木
	マテバシイ	○	○	木

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
ニレ科	ムクノキ	○	○	木
	エノキ	○	○	木
クワ科	イタビカズラ	○	○	木
	イヌビワ	○	○	木
	ツルコウゾ	○	○	木
	ヒメコウゾ	○	○	木
	ヤマグワ	○	○	木
アサ科	カナムグラ	○	○	
イラクサ科	カラムシ	○	○	
	ヤブマオ	○	○	
	アオミズ		○	
ホルトノキ科	コバンモチ	○	○	木
アオイ科	アメリカキンゴジカ		○	帰
アオギリ科	アオギリ		○	木・逸
ヤマモガシ科	ヤマモガシ	○	○	木
ボロボロノキ科	ボロボロノキ	○	○	木
タデ科	アレチギンギシ	○	○	帰
	イシミカワ	○	○	
	イヌタデ	○	○	
	オオイヌタデ	○	○	
	ギンギシ	○	○	
	ミズヒキ	○	○	
	ミゾソバ	○	○	
	ママコノシリヌグイ		○	
	ハナタデ		○	
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	○	○	帰
ザクロソウ科	ザクロソウ	○	○	
スベリヒユ科	スベリヒユ	○	○	
ナデシコ科	コハコベ	○	○	
	ウシハコベ		○	
ヒユ科	イヌビユ	○	○	帰
	ホナガイヌビユ		○	帰
マツブサ科	サネカズラ	○	○	木
クスノキ科	アオモジ	○	○	木
	カゴノキ	○	○	木
	クスノキ	○	○	木
	シロダモ	○	○	木
	タブノキ	○	○	木
	ヤブニツケイ	○	○	木
	ヤマコウバシ	○	○	木

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
キンボウゲ科	センニンソウ	○	○	
	ボタンズル	○	○	木
メギ科	ナンテン	○	○	木
アケビ科	アケビ	○	○	木
	ゴヨウアケビ	○	○	木
	ミツバアケビ	○	○	木
	ムベ	○	○	木
ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	○	○	木
ハス科	ハス		○	逸
ドクダミ科	ドクダミ	○	○	
ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	○		
ツバキ科	サカキ	○	○	木
	チャノキ	○	○	木・逸
	ヒサカキ	○	○	木
	ヤブツバキ	○	○	木
ケン科	クサノオウ	○		
コショウ科	フウトウカズラ	○	○	木
シキミ科	シキミ	○	○	木
アブラナ科	ナズナ		○	
	マメグンバイナズナ	○		帰
	イヌガラシ		○	
ユキノシタ科	ウツギ	○	○	木
	ノリウツギ	○	○	木
バラ科	オヘビイチゴ	○	○	木
	カマツカ	○	○	木
	キンミズヒキ	○	○	木
	クサイチゴ	○	○	木
	クマイチゴ	○	○	木
	ダイコンソウ	○	○	木
	テリハノイバラ	○	○	木
	ナガバモミジイチゴ	○	○	木
	ナワシロイチゴ	○	○	木
	ノイバラ	○	○	木
	ビロードイチゴ	○	○	木
	フユイチゴ	○	○	木
	ヤマザクラ	○	○	木
マメ科	アレチヌスビトハギ	○	○	帰
	ヌスビトハギ		○	
	コメツブツメクサ	○		帰

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
(マメ科)	シロツメクサ	○	○	帰
	ツルマメ	○	○	
	ナツフジ	○	○	木
	ニシキハギ	○	○	木
	ニセアカシア	○	○	木・逸
	ネコハギ	○	○	
	ネムノキ	○	○	木
	ノアズキ	○	○	
	ヤハズソウ	○	○	
	ヤブマメ	○	○	
	ヤマハギ	○	○	木
	ヤマフジ	○	○	木
	クサネム		○	
	タンキリマメ		○	
カタバミ科	アカカタバミ	○	○	
	オッタチカタバミ	○	○	帰
	カタバミ	○	○	
	ムラサキカタバミ	○	○	帰
トウダイグサ科	アカメガシワ	○	○	木
	エノキグサ	○	○	
	カンコノキ	○	○	木
	コニシキソウ	○	○	帰
	ナンキンハゼ	○	○	木・逸
	ニシキソウ	○	○	
ミカン科	カラスザンショウ	○	○	木
センダン科	センダン	○	○	木
ヒメハギ科	ヒメハギ	○	○	
ウルシ科	ヌルデ	○	○	木
	ハゼノキ	○	○	木
	ヤマウルシ	○	○	木
	ヤマハゼ	○	○	木
カエデ科	イロハカエデ	○	○	木
モチノキ科	ナナミノキ	○	○	木
	イヌツゲ	○	○	木
	クロガネモチ	○	○	木
ニガキ科	ニワウルシ	○	○	木・逸
ニシキギ科	コマユミ	○	○	木
	ツルウメモドキ	○	○	木
	マユミ	○	○	木

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
ミツバウツギ科	ゴンズイ	○	○	木
フウロソウ科	アメリカフウロ	○	○	帰
ブドウ科	エビヅル	○	○	木
	キレハノブドウ	○	○	木
	ツタ	○	○	木
	ノブドウ	○	○	木
	ヤブガラシ	○	○	
グミ科	ナワシログミ	○	○	木
スマレ科	スマレ		○	
イイギリ科	クストイゲ	○	○	木
ウリ科	アマチャヅル	○	○	
	カラスウリ	○	○	
ヒシ科	ヒシ		○	
アカバナ科	コマツヨイグサ	○	○	帰
	メマツヨイグサ		○	帰
	ミズタマソウ		○	
ミズキ科	アオキ	○	○	木
	クマノミズキ	○	○	木
ウコギ科	カクレミノ	○	○	木
	キツタ	○	○	木
	タラノキ	○	○	木
	ハリギリ	○	○	木
	ヤツデ	○	○	木
	オカウコギ		○	木
セリ科	ウマノミツバ	○	○	
	チドメグサ	○	○	
	ツボクサ	○	○	
	ミツバ	○	○	
	ヤブニンジン	○		
②合弁花類 第1回(20科60種) 第2回(21科78種) 合計(22科82種)				
ツツジ科	シャシヤンボ	○	○	木
	ネジキ	○	○	木
	ヤマツツジ	○	○	木
ヤブコウジ科	イズセンリョウ	○	○	木
	マンリョウ	○	○	木
	ヤブコウジ	○	○	木
サクラソウ科	オカトラノオ	○		
	コナスビ	○	○	
カキノキ科	カキノキ	○	○	木

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
エゴノキ科	エゴノキ	○	○	木
ハイノキ科	クロキ	○	○	木
	クロミノサワフタギ	○	○	木
	ミズノバイ	○	○	木
モクセイ科	トウネズミモチ	○	○	木・逸
	ネズミモチ	○	○	木
	ヒイラギ	○	○	木
	ウスギモクセイ		○	木・逸【環境省準絶滅危惧】
キョウチクトウ科	テイカカズラ	○	○	木
ガガイモ科	ガガイモ		○	
アカネ科	クチナシ	○	○	木
	アカネ	○	○	
	ヘクソカズラ	○	○	
	カギカズラ		○	木
ヒルガオ科	リュウキュウアサガオ	○	○	逸
	コヒルガオ	○	○	
	ホシアサガオ		○	帰
	マルバルコウ		○	帰
ムラサキ科	チシャノキ	○	○	木
クマツヅラ科	アレチハナガサ	○	○	帰
	クサギ	○	○	木
	ハマクサギ	○	○	木
	ムラサキシキブ	○	○	木
	ヤブムラサキ	○	○	木
シソ科	カキドオシ	○	○	
	トウバナ	○	○	
	イヌコウジュ		○	
	キラソウ		○	
ナス科	イヌホオズキ	○		帰
	テリミノイヌホオズキ		○	帰
	クコ	○	○	木・逸
	ヒヨドリジョウゴ	○	○	
ゴマノハグサ科	キリ	○	○	木・逸
	アゼトウガラシ		○	
	ウリクサ		○	
	オオイヌノフグリ		○	帰
	キクモ		○	
	スズメノトウガラシ		○	
	トキワハゼ		○	

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
ハエドクソウ科	ハエドクソウ	○		
キツネノマゴ科	キツネノマゴ		○	
オオバコ科	オオバコ	○	○	
スイカズラ科	キダチニンドウ	○	○	木
	コバノガマズミ	○	○	木
	スイカズラ	○	○	木
	ニワトコ	○	○	木
	ハクサンボク	○	○	木
キキョウ科	キキョウソウ	○		帰
	アゼムシロ		○	
キク科	アキノノゲシ	○	○	帰
	アメリカセンダングサ	○	○	帰
	ウラジロチチコグサ	○	○	帰
	オオアレチノギク	○	○	帰
	オオキンケイギク	○	○	【特定外来生物】
	オニタビラコ	○	○	
	キバナコスモス	○	○	逸
	セイタカアワダチソウ	○	○	帰
	チチコグサ	○	○	
	チチコグサモドキ	○	○	帰
	ツワブキ	○	○	
	ハルシャギク	○	○	帰
	ノゲシ	○	○	帰
	ヒメジョオン	○	○	帰
	ヒヨドリバナ	○	○	
	ベニバナボロギク	○	○	帰
	ムラサキニガナ	○	○	
	ヨモギ	○	○	
	オカダイコン		○	
	オニタビラコ		○	
	コセンダングサ		○	
	シロノセンダングサ		○	
	センダングサ		○	
	ヤクシソウ		○	

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
②単子葉類 第1回(9科42種) 第2回(10科68種) 合計(11科70種)				
トチカガミ科	クロモ		○	
ユリ科	ウバユリ	○	○	
	サルトリイバラ	○	○	木
	タカサゴユリ	○	○	帰
	ナガバジャノヒゲ	○	○	
	ヤブラン	○	○	
ヒガンバナ科	ヒガンバナ		○	
	タマスダレ		○	
ヤマノイモ科	オニドコロ	○	○	
	カエデドコロ	○	○	
	ニガカシュウ	○	○	
	ヤマノイモ	○	○	
アヤメ科	シャガ	○	○	
	ヒメヒオウギズイセン	○	○	逸
イグサ科	クサイ	○		
ツユクサ科	ツユクサ	○	○	
	ノハカタカラクサ	○	○	帰
	ヤブミョウガ	○	○	
イネ科	イヌビエ	○	○	
	エノコログサ	○	○	
	オヒシバ	○	○	
	ギョウギシバ	○	○	
	クマザサ	○	○	
	ササガヤ	○	○	
	シマスズメノヒエ	○	○	帰
	ススキ	○	○	
	セイバンモロコシ	○	○	帰
	タチスズメノヒエ	○	○	帰
	チカラシバ	○	○	
	チヂミザサ	○	○	
	ナギナタガヤ	○	○	帰
	ネザサ	○	○	
	ハチク	○	○	帰
	ホソムギ	○	○	帰
	マダケ	○	○	帰・木
	メダケ	○	○	木
	メヒシバ	○	○	
	モウソウチク	○	○	帰・木

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
(イネ科)	アキメヒシバ		○	
	アブラススキ		○	
	オオクサキビ		○	帰
	オガルカヤ		○	
	カゼクサ		○	
	キツネガヤ		○	
	キンエノコロ		○	
	コツブキンエノコロ		○	
	コメヒシバ		○	
	ササクサ		○	
	チゴザサ		○	
	トダシバ		○	
	ヌカキビ		○	
	ネズミノオ		○	
	ハイヌメリ		○	
	ヒメイヌビエ		○	
	ムラサキネズミノオ		○	
	メリケンカルカヤ		○	帰
	アシボソ		○	
	ヒメアシボソ		○	
ヤシ科	シュロ	○	○	木
カヤツリグサ科	ヒメクグ	○	○	
	ナキリスゲ	○	○	
	ハマスゲ	○	○	
	ヤワラスゲ	○	○	
	イヌクグ		○	
	イヌクログワイ		○	
	エゾアブラガヤ		○	
	ヒデリコ		○	
	ヤマイ		○	
ラン科	コ克蘭	○	○	
	ネジバナ	○		

(備考)

木 : 「木本類」の略。木本類とは、形成層が発達し木質化するもので、おおまかにいえば年輪を有するもの。ただし、例外として竹の仲間やつる性のもので年輪が無く、形成層が無くとも木本とするものがある。⇔草本類は、形成層が無い、あるいはあまり発達せず木質化しないもの。

帰 : 「帰化植物」の略。帰化植物とは、意図的・非意図的に関わらず、人為的に本来生息しない地域に持ち込まれ、野生化した植物。

逸 : 「植栽逸出」の略。人為的に植栽されたものが、野生化して繁殖したもの。一般的に帰化植物のうち意図的に持ち込まれたものをさす。

菌類

菌類合計リスト

科名	和名	第1回調査	第2回調査	備考
ハラタケ目 第1回(なし) 第2回(3科3種) 合計(3科3種)				
キシメジ科	シロマツタケモドキ		○	【環境省準絶滅危惧種】
テングタケ科	シロオニタケ		○	
ベニタケ科	ヤブレベニタケ		○	
ヒダナシタケ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)				
ヤマタニシ科	ウチワタケ		○	

希少野生生物リスト

和名	種類
シロマツタケモドキ 	【環境省準絶滅危惧】 秋にアカマツ林やナラ類の林内に発生する。きのこの個体差によるものか、時としてマツタケのような香りをもつことがある。きのこの根元は土の中に深く入っていることが多い。 傘は初めまんじゅう形で後には開いて平らになる。表面の色は白色で、ごく淡い褐色のささくれが着いている。ひだは柄に直生し並び方はややあらいからやや密まで変化にとみ、色は白色。柄は白色でつばを持ち、それより下にはささくれがある。(出典: 社団法人農林水産技術情報協会)

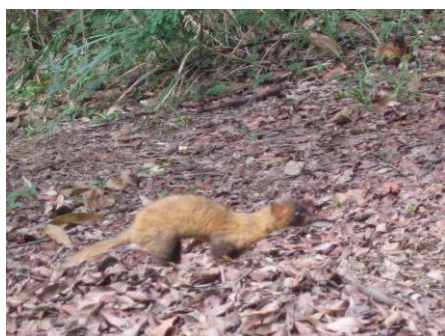
(3) ほ乳類

第1回調査では、イノシシのぬた場を確認した。第2回調査では、テン及びイノシシの足跡を確認した。第1回及び第2回の調査結果から、合計2目2科2種を確認した。

ほ乳類合計リスト

No. 1

科名	和名	第1回調査	第2回調査	備考
ウシ目 第1回(1科1種) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)				
イノシシ科	イノシシ	○	○	
ネコ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)				
イタチ科	テン		○	



突然林道に現れたテン



イノシシの足跡

(4) 鳥類

第1回調査では、3目11科13種、第2回調査では、5目10科11種を確認した。第1回及び第2回の調査結果から、合計5目15科19種を確認した。

希少野生生物は、福岡県の絶滅危惧Ⅰ類に指定されているサンコウチョウを目視確認した。

また、特定外来生物に指定されているソウシチョウを鳴き声によって確認した。

鳥類合計リスト

No. 1

科名	和名	第1回調査	第2回調査	備考
ハト目 第1回(1科1種) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)				
ハト科	キジバト	○	○	
キツツキ目 第1回(1科1種) 第2回(1科1種) 合計(1科2種)				
キツツキ科	アオゲラ	○		
	コゲラ		○	
スズメ目 第1回(9科11種) 第2回(6科7種) 合計(11科14種)				
ツバメ科	ツバメ	○		
	イワツバメ	○		
ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○	
チメドリ科	ソウシチョウ		○	【特定外来生物】
ウグイス科	ウグイス	○		
ヒタキ科	キビタキ	○		
カササギヒタキ科	サンコウチョウ	○		【県絶滅危惧Ⅱ類】
シジュウカラ科	ヤマガラ		○	
	シジュウカラ	○		
メジロ科	メジロ	○	○	
ホオジロ科	ホオジロ	○		
ハタオリドリ科	スズメ	○	○	
カラス科	ハシボソガラス	○	○	
	ハシブトガラス	○	○	
カイツブリ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)				
カイツブリ科	カイツブリ		○	
カモ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)				
カモ科	オカヨシガモ		○	

希少野生生物リスト

和名	種類
サンコウチョウ 写真なし	【県絶滅危惧Ⅰ類】 県内では夏鳥として渡来するが、局地的であり個体数も少ない。宅地造成などで、生息地そのものが消滅した例もあり、生息数の減少が懸念される。また、渡りの時期に見られる個体数は、ここ10年でみると著しく減少しており、全国規模での個体数の減少が見られる。(出典:福岡県レッドデータブック 2001)

特定外来生物リスト

和 名	種 類
ソウシチョウ 	【特定外来生物】 渡りはせず、主に標高1000m以上の落葉広葉樹林や竹林などの下層部や藪に生息する。体色は暗緑色で、のどは黄色く、翼に赤と黄の斑紋があり、嘴は赤い。日本では下層植生の発達した森林のササ群落中に営巣する。大きな声でよくさえずる。(出典:環境省特定外来生物等一覧)

(5) 爬虫類・両生類

第1回調査では、爬虫類2目2科2種、両生類2目3科4種を確認した。第2回調査では、爬虫類1目1科1種、両生類2目4科5種を確認した。第1回及第2回の調査結果から合計爬虫類2目3科3種、両生類2目4科5種を確認した。

爬虫類合計リスト

科名	和名	第1回調査	第2回調査	備考
有鱗目 第1回(1科1種) 第2回(1科1種) 合計(2科2種)				
カナヘビ科	カナヘビ		○	
ナミヘビ科	ヒバカリ	○		
カメ目 第1回(1科1種) 第2回(なし) 合計(1科1種)				
ヌマガメ科	ミシシippアカミガメ	○		

両生類合計リスト

科名	和名	第1回調査	第2回調査	備考
カエル目 第1回(1科1種) 第2回(3科4種) 合計(3科4種)				
アマガエル科	ニホンアマガエル	○	○	
アカガエル科	ヌマガエル	○	○	
	ツチガエル	○	○	
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル		○	
有尾目 第1回(1科1種) 第2回(1科1種) 合計(2科2種)				
イモリ科	アカハライモリ	○	○	【環境省準絶滅危惧】 【県準絶滅危惧】

希少野生生物リスト

和 名	種 類
アカハライモリ 	【環境省準絶滅危惧】【県準絶滅危惧】 低地、山地の池や溝に多く生息していたが、近年低地ではほとんど見かけなくなった。成体は水中で生活するが、年間を通して生活できる適当な水域が減少していることが衰退の主な原因と見られる。(出典:福岡県レッドデータブック 2001)

(6) 昆虫類・クモ類

第1回調査では、昆虫類8目46科113種、クモ類1目12科24種、第2回調査では、昆虫類8目35科76種、クモ類1目10科17種を確認した。第1回及び第2回の調査結果から、合計昆虫類8目49科126種、クモ類1目13科29種を確認した。

希少野生生物は、昆虫類で福岡県準絶滅危惧に指定されているベニツチカメムシを、クモ類では環境省絶滅危惧Ⅱ類に指定されているキムラグモを確認した。

クモ類は、世界的にはおよそ二万種が知られ、国内でも約一千種が分布しており、中でもキムラグモは三億年前に地球上に出現した原始的なクモである。

希少種及び特定外来生物リスト

和 名	種 類
ベニツチカメムシ 	【福岡県準絶滅危惧】 集団で亜社会生活をする大型種で、幼虫は地面でボロボロノキの核果で育つ。体長16～19mm 鮮紅色に大きな黒色の紋をもつ。(出典:福岡県レッドデータブック2001)

昆虫類合計リスト

No. 1

科名	和名	第1回調査	第2回調査	備考
チョウ目 第1回(12科42種) 第2回(11科30種) 合計(12科46種)				
セセリチョウ科	イチモンジセセリ	○	○	
	ダイミョウセセリ	○		
	クロセセリ	○		
	キマダラセセリ	○	○	
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	○	○	
	ミカドアゲハ	○		
	アゲハチョウ	○	○	
	キアゲハ	○		
	モンキアゲハ	○	○	
	ナガサキアゲハ	○	○	
	ジャコウアゲハ	○		
シロチョウ科	モンシロチョウ	○	○	
	スジグロシロチョウ		○	
	キチョウ	○	○	
	モンキチョウ	○	○	
ジミチョウ科	ヤマトジミ	○	○	
	ルリジミ	○	○	
	ムラサキシジミ	○	○	
	ムラサキツバメ	○	○	
	ベニジミ	○		
	ツバメジミ	○	○	

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
ウラギンシジミ科	ウラギンシジミ	○	○	
タテハチョウ科	アカタテハ	○	○	
	ヒメアカタテハ	○		
	イシガキチョウ	○	○	
	キタテハ	○	○	
	タテハモドキ		○	
	ゴマダラチョウ	○		
	コミスジ	○	○	
	イチモンジチョウ	○		
	ツマグロヒョウモン	○	○	
ジャノメチョウ科	クロヒカゲ	○	○	
	ヒメウラナミジャノメ	○		
	ヒメジャノメ	○		
	クロコノマチョウ		○	
ミノガ科	チャミノガ	○	○	
	シバミノガ	○	○	
イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	○	○	
	イラガ		○	
ヤガ科	フクラスズメ	○		
	ハヅルモトモエ	○		
	オオトモエ	○		
スズメガ科	オオスカシバ	○	○	
	ホシホウジャク	○		
ヤママユガ科	クスサン	○	○	
	シンジュサン	○		
トンボ目 第1回(6科19種) 第2回(3科13種) 合計(6科20種)				
ヤンマ科	カトリヤンマ	○	○	
	ギンヤンマ	○	○	
	クロスジギンヤンマ	○	○	
サナエトンボ科	タイワンウチワヤンマ	○		
オニヤンマ科	オニヤンマ	○		
トンボ科	ウスバキトンボ	○	○	
	シオカラトンボ	○	○	
	オオシオカラトンボ	○		
	コシアキトンボ	○		
	ハラビロトンボ	○	○	
	ネキトンボ	○	○	
	ショウジョウトンボ	○	○	
	ハネビロトンボ	○	○	
	マユタテアカネ	○	○	

科名	和名	第1回調査	第2回調査	備考
(トンボ科)	ノシメトンボ	○		
	ハラボソトンボ	○		
イトトンボ科	アオモンイトトンボ	○	○	
	クロイトトンボ	○	○	
	ベニイトトンボ		○	【環境省絶滅危惧Ⅱ類】
アオイトトンボ科	アオイトトンボ	○		
コウチュウ目 第1回(9科20種) 第2回(8科14種) 合計(10科23種)				
コガネムシ科	カナブン	○	○	
	シラホシハナムグリ	○	○	
	クロコガネ	○		
	ヒメコガネ	○		
	コガネムシ	○	○	
	ピロウドコガネ	○	○	
	クロコガネ	○	○	
	クリイロコガネ		○	
	マメコガネ	○		
ハムシ科	クロウリハムシ	○		
ハンミョウ科	ハンミョウ	○	○	
	ニワハンミョウ	○		
テントウムシ科	ナナホシテントウ	○		
	ナミテントウ	○	○	
	ニジュウヤボシテントウ	○	○	
ホソクビゴミムシ科	ミイデラゴミムシ	○		
センチコガネ科	センチコガネ	○	○	
シデムシ科	オオヒラタシデムシ	○	○	
ハネカクシ科	オアバアリガタハネカクシ	○	○	
クワガタムシ科	ヒラタクワガタ		○	
カミキリムシ科	ノコギリカミキリ		○	
	ゴマダラカミキリ	○		
	ラミーカミキリ	○		
カメムシ目 第1回(5科8種) 第2回(3科3種) 合計(5科8種)				
カメムシ科	クサギカメムシ	○		
	アオクサカメムシ	○		
マルカメカメムシ科	マルカメムシ	○		
ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ	○	○	
	ホソヘリカメムシ	○		
ツチカメムシ科	ベニツチカメムシ	○	○	【福岡県準絶滅危惧】
セミ科	クマゼミ	○	○	
	アブラゼミ	○		

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
ハチ目 第1回(3科7種) 第2回(1科1種) 合計(3科7種)				
スズメバチ科	オオスズメバチ	○		
	キイロスズメバチ	○		
	フタモンアシナガバチ	○		
ミツバチ科	ニホンミツバチ	○	○	
	キムネクマバチ	○		
アリ科	アミメアリ	○		
	クロオオアリ	○		
ハエ目 第1回(5科6種) 第2回(2科3種) 合計(6科8種)				
ムシヒキアブ科	シオヤアブ	○		
	マカリケムシヒキ	○		
アシナガバエ科	マダラアシナガバエ	○		
ヒラタアブ科	ホソヒラタアブ	○		
ハナアブ科	ハナアブ	○		
ニクバエ科	センチニクバエ	○	○	
クロバエ科	キンバエ		○	
	オオクロバエ		○	
バッタ目 第1回(5科8種) 第2回(6科10種) 合計(6科11種)				
バッタ科	ショウリョウバッタ	○	○	
	トノサマバッタ		○	
	イボバッタ	○	○	
オンブバッタ科	オンブバッタ	○	○	
イナゴ科	ツチイナゴ	○	○	
ヒシバッタ科	ヒシバッタ	○	○	
キリギリス科	サトクダマキモドキ		○	
	セスジツユムシ	○	○	
	ツユムシ	○	○	
	ササキリ	○		
カネタタキ科	カネタタキ		○	
カマキリ目 第1回(1科3種) 第2回(1科2種) 合計(1科3種)				
カマキリ科	オオカマキリ	○	○	
	コカマキリ	○		
	ハラビロカマキリ	○	○	

希少種及び特定外来生物リスト

和 名	種 類
キムラグモ 	【環境省絶滅危惧Ⅱ類】 腹部に体節の跡がある最も原始的なクモ。崖地に横、又は斜めに深さ 5～15cm の穴を掘り、入口に片開きの扉を付けた住居を作る。住居は入口付近だけが糸で裏打ちされている。崖地だけでなく、縁側の下、神社・寺院の床下、森林内の林床にも生息する。(出典:ネイチャーガイド日本のクモ新海栄一 著)

クモ類合計リスト

No. 1

科名	和名	第1回調査	第2回調査	備考
クモ目 第1回(12科24種) 第2回(10科17種) 合計(13科29種)				
キムラグモ科	キムラグモ		○	環境省絶滅危惧Ⅱ類
ジグモ科	ジグモ	○	○	
ウズグモ科	ウズグモ	○	○	
タナグモ科	ヤチグモ	○		
	コクサグモ	○	○	
コモリグモ科	ウズキコモリグモ	○	○	
	ハラクロコモリグモ	○	○	
キシダグモ科	イオウイロハシリグモ	○		
	スジブトハシリグモ	○		
ササグモ科	ササグモ	○		
ヒラタグモ科	ヒラタグモ	○	○	
ヒメグモ科	オオヒメグモ	○		
	ツリガネヒメグモ		○	
アシナガグモ科	アシナガグモ	○	○	
	ヤサガタアシナガグモ	○	○	
	ジョロウグモ		○	
	チュウガタシロカネグモ		○	
コガネグモ科	ドヨウオニグモ	○	○	
	サツマノフンダマン	○		
	コガネグモ	○		
	ナガコガネグモ	○		
	ゴミグモ		○	
カニグモ科	ハナグモ	○		
	ヤミイロカニグモ	○		
	ワカバグモ	○		
ハエトリグモ科	ネコハエトリ	○	○	
	マシロハエトリ	○	○	
	アオオビハエトリ	○	○	
	アリグモ	○		

(7) 陸産貝類

第1回調査では2目2科2種、第2回調査では、1目1科1種を確認した。

第1回及び第2回の調査結果から、2目2科2種を確認した。

陸産貝類合計リスト

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
有肺目 第1回(1科1種) 第2回(なし) 合計(1科1種)				
オナジマイマイ科	ツクシマイマイ	○		
原始腹足目 第1回(1科1種) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)				
ヤマタニシ科	ヤマタニシ	○	○	

(8) その他

第1回調査では、環形動物門貧毛綱フトミミズ科のシーボルトミミズを確認した。

科名	和名	第1回 調査	第2回 調査	備考
ナガミズ目 第1回(1科1種) 第2回(なし) 合計(1科1種)				
フトミミズ科	シーボルトミミズ	○		

7 まとめ

今回の調査で、植物109科368種、菌類2目4科4種、ほ乳類2目2科2種、鳥類5目15科19種、爬虫類2目3科3種、両生類2目4科5種、昆虫類8目49科126種、クモ類1目13科29種、陸産貝類2目2科2種、貧毛綱1目1科1種が確認された。

また、希少野生生物については、植物のイヌカタヒバ【環境省絶滅危惧Ⅱ類】、ウスギモクセイ【環境省準絶滅危惧】、鳥類のサンコウチョウ【福岡県絶滅危惧Ⅰ類】、両生類のアカハライモリ【環境省準絶滅危惧】【県準絶滅危惧】、昆虫類のベニツチカメムシ【福岡県準絶滅危惧】、クモ類のキムラグモ【環境省絶滅危惧Ⅱ類】、菌類のシロマツタケモドキ【環境省準絶滅危惧】が確認された。

本地域は、霊園やホテルなどの人為的に開発された地域に隣接しているが、現状でも自然林も多く豊かな生態系を備えている。また、大間山山頂付近は新大牟田駅などを眺望できるハイキングコースとして多くの市民が利用している。これからも豊かな自然を保護していくことが必要である。

大牟田市自然環境調査研究会

大牟田市における自然環境の調査、研究等を行い、専門的な見地から助言等を行う、市長の委嘱を受けた機関です。

発 行 日／平成23年3月

編集・発行／大牟田市環境部環境保全課

〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地

TEL:0944(41)2721 FAX:0944(41)2722